

## 建物の由来

「中平路物語館」は1930年に建てられ、よく管理された和風建築の二階建て建物である。日本統治時代には台湾へ移住した日本人の住居として使用され、戦後には政府から公務員寮として割り当てられ、山地課に勤める王国治氏、教育局に勤める廖運全氏とその家族が住んでいた。

王家と廖家とともに桃園出身の客人であり、客人家の生活経験と和風環境を融合させ、徐々にユニークなライフスタイルを築き上げ、多文化の共存を見せるようになった。両家の四世代が一世紀近くをこの屋敷で過ごし、家族の感情と歴史的な思い出が色濃く残っている。この30坪余りの空間には、日本式の間取りと生活機能が保たれているだけでなく、当時の一般市民の日常生活風景も残されており、昔の中遷の生活の軌跡を目の当たりにすることができる。

2007年に住民が引っ越した後、2010年に歴史的建造物として登録され、この古民家を再利用するために、桃園市政府文化局は2013年から修繕に取り掛かった。2年近くの改修工事を経て、2015年5月に「中平路物語館」として開館し、来館者を迎え入れている。さらに、2021年には文化財型環境教育施設の認証を取得し、多様で豊かな建物のスタイルを表現している。

## 空間の活性化

館内には展示エリアがあり、主に中平路物語館の過去の活動や歴史を展示している。展示テーマは定期的に変わり、より多様で新たな視点から中遷住民の生活を表現している。

当館は環境教育施設としての役割も担っており、遷景町や遷小物語の森と連携することで、中遷都市物語館は持続可能な発展のコンセプトを推進し続けることができる。

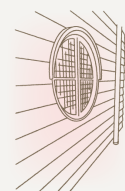
当館では時々、手作り体験講座を開催し、様々な芸術文化活動を通じて、若い世代の視点で多文化背景を解釈している。



## 和風建築の紹介

台湾を訪れた日本人が、多くの和風建築を目にすると「懐かしい」という感情だけでなく、建築をより身近に感じ、さらに、台湾独特の外観に驚かされるだろう。

中遷都市物語館群(中平路物語館、遷小物語の森、遷景町)は、座敷、居間、炊事場などの和風建築の特徴を持ちつつ、台湾の環境の変化に対応したデザインも取り入れている。



### 「洋風の丸窓」

従来の日本住宅の立て窓は、京都生まれの「京町家」の四角い格子窓が代表的であったが、中平路物語館では洋風の要素を取り入れられており、丸窓には細かい木の格子が使われている。



### 「雨水板の外壁」

雨水板で覆われた外壁は、台湾の和風住宅の標準的な外観と言える。雨の多い台湾では、横板は上下に重なって横板が雨水を速やかに流し、外壁の木板の隙間に雨水が溜まることを防ぐ。

### 「台座」

高めの建物台座は、外観上、台湾の和風建築における重要な特徴と言える。通常、日本の木造住宅では、地面から床までの高さは約45cmだが、台湾では高温多湿の気候に対応し、高めになっていることが多く、中平路物語館の台座は50cmほどの高さがあり、通気口も設けられている。

## 台湾における和風建築の特徴

### 「玄関」と「踏込」

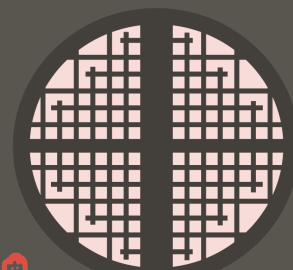
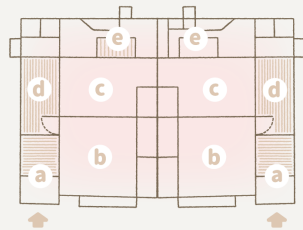
これらは出入口の空間である。「玄関」は屋内外をつなぐ中間空間であり、広義には踏込を含み、踏込は正式に屋内に入る前に靴を脱いで床を上げる場所である。その昔、王家と廖家では毎年、玄関の前で家族写真を撮っていたという。

### 「座敷」

座敷は和風住宅の中で通気性が良く、最も日当たりの良い部屋で、来客を迎える居間としてよく使われる。通常は、畳が敷かれており「床の間」には本や絵画、美術品などが置かれ、家主の趣味が見て取れる。かつては中平路物語館の座敷から、中遷駅に出入りする列車を一望することができた。

### 「居間」

居間は家族が団らんできる空間であり、玄関と遠く、来客が来ても影響を受けにくい部屋である。限られた空間しかない和室寮では、「座敷」が来客をもてなす外部空間であるのに対し、「居間」は家族の生活空間である。



Since 1930

中平路故事館  
Zhongping Rd Story House

日本語版

開館時間 10:00-17:00  
月曜休館、祝祭日は通常営業。

列車 中遷駅降車後、徒歩約5分。

バス (桃園/中遷/新竹/国光)中遷駅で降り、歩いて約5分。

高速鉄道 桃園駅降車後、170番バスに乗り換え、中遷本駅降車後、徒歩約5分。

車 / 周辺駐車場

P1 延平路立体駐車場(中遷区延平路535号)  
P2 中央地下駐車場(中遷区中央東路83号)



指導單位/ 桃園市政府、桃園市議會 主辦單位/ 桃園市政府文化局



### 「縁側」

縁側は和風住宅特有の構造で、座敷と庭の間にあり、ゆつたりと腰を下ろして庭を眺めることができる。夏の日には、両家が涼を取るのに最適な場所であった。

### 「炊事場」

炊事場は台所で、通常は風呂場隣接している。炊事場に「勝手口」と呼ばれる小さな扉と、来客に迷惑をかけないよう、家族が出入りするのためのもうひとつの出入口があり、「内玄関」とも呼ばれる。さらに、床下には収納庫が設けられており、両家は漬物を貯蔵する蔵として使っていた。